

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	山下 博之		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 4		
講義室	1312	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる論理知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイディアを革新的かつ創造的に結合し、リスクをとりながら、結果にむすびつけることができる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕文章口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） F 1 探求と論拠（20%） I 1 理解・分析と読解（15%） I 3 情報分析（10%） J 2 創造的思考（5%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（10%） M 1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。また、2019年度以降は栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援しています。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット区分：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		

科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。 ここでは、卒業論文につながる個人研究に関して、実際に歴史文献の収集や、社会調査、事例分析や法学的検討など実証的な研究活動を通じて、オリジナルの一次資料による個人研究の作業を開始し、指導します。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■ キーワード 防災・減災、政策リサーチ、リサーチクエストと仮説、資料・データ、共同研究	
授業の趣旨	■ 副題 社会に対する自らの問題意識をもとに仮説検証型の研究計画書を作成しましょう。 ■ 授業の目的 ゼミⅢの目的は次の5つの点です。 ・ 研究を通じて検討すべきテーマを、自らの問題意識の中から抽出すること。 ・ 関連する先行研究をもとに自らの研究テーマの位置付けと研究上の空隙とを確認すること。 ・ 研究テーマをリサーチクエスト（研究上の問い）として表現すること。 ・ 自ら設定したリサーチクエストに対する仮説を設定すること。 ・ 仮説を検証するための方法や手順、スケジュール等を研究計画書に整理すること。 ■ 授業のポイント ゼミⅢでは、最終的に研究計画書の完成を目指します。	
総合到達目標	■ 旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・ 自らの問題意識を提示することができる（第1回～第3回） ・ 研究の問いに対する仮説を提示することができる（第1回～第3回）。 ・ 自らの研究テーマに関連する文献を分類することができる（第4回～第7回）。 ・ 関連する文献と自らの研究との関係を説明することができる（第4回～第7回）。 ・ 自らの問題意識を研究の問いとして説明することができる（第8回～第11回）。 ・ 研究の問いに対する仮説を提示することができる（第8回～第11回）。 ・ 仮説の検証方法を自ら検討し、研究計画として提示することができる（第12回～第15回）。 ■ 授業を通じて他者とコミュニケーションをとることができる。 ・ 読みやすさ、見やすさを意識しながら発表用の資料を作成することができる（第2回～第4回） ・ 発表の際、聞き手の反応を意識しながら発表することができる（第2回～第15回） ・ 発表に対する自分なりの意見や質問を述べることができる（第2回～第15回）。	
成績評価方法	■ レジューメの作成・報告 4回（35%）：適用ルーブリックE1、F1、I1、I3、K1、K2、M1 （評価の観点）報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられたレジューメ・パワポかどうか、分かりやすいレジューメ・パワポかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、ポイントを押さえられているかどうか、レジューメ・パワポ内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ 卒論研究計画書の執筆・提出 1回（40%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、M1 （評価の観点）自ら設定したリサーチクエストに対する仮説を検証するための方法や手順、スケジュール等を研究計画書に整理し、提出してもらいます。自ら設定したリサーチクエストに答える上で、①設定した仮説が適当か、②仮説を検証するため検証方法は適当か、③十分な先行研究を踏まえているか、④スケジュールに無理はないか評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度アドバイスします。 ■ 授業参加度 15回（25%）：適用ルーブリックE1、F1、I1、I3、K1、K2、L1 （評価の観点）上記のレジューメ・パワポ・レポート等の報告者が行った報告について自分なりに考察し、意見及び疑問を提示しているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）その都度、評価しアドバイスします。	
履修条件	『社会調査法』、『災害対策論』を履修していることが望めます。	
履修上の注意点	・ 報告や議論に積極的に参加してください。 ・ 無断欠席は厳禁。欠席する場合は、教員に直接連絡をすること。 ・ フリーライド（ただ乗り）は認めません。ゼミ活動への積極的な貢献が望まれます。	
授業内容	回	内容

1	① 授業テーマ 研究テーマの抽出（１） ② 授業概要 ・研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたいと考える理由を検討し、報告します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（120分） ・研究を通じて自分が研究を通じて明らかにしたいことがどんなことなのか、明らかにしたい理由・意義は何であるのかについて検討し、レジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（120分） ・自らの研究テーマ（自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義）について、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
2	① 授業テーマ 研究テーマの抽出（２） ② 授業概要 ・研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたいと考える理由を報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（120分） ・研究を通じて自分が研究を通じて明らかにしたいことがどんなことなのか、明らかにしたい理由・意義は何であるのかについて検討し、レジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（120分） ・自らの研究テーマ（自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義）について、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
3	① 授業テーマ 研究テーマの抽出（３） ② 授業概要 ・研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたいと考える理由を報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（120分） ・研究を通じて自分が研究を通じて明らかにしたいことがどんなことなのか、明らかにしたい理由・意義は何であるのかについて検討し、レジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（120分） ・自らの研究テーマ（自分が研究を通じて明らかにしたいこと、明らかにしたい理由・意義）について、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
4	① 授業テーマ 先行研究の整理（１） ② 授業概要 ・自らの研究テーマと関連する先行研究を整理し、先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかを報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかをレジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
5	① 授業テーマと概要 先行研究の整理（２） ② 授業概要 ・自らの研究テーマと関連する先行研究を整理し、先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかを報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。

	・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかをレジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
6	① 授業テーマと概要 先行研究の整理（3） ② 授業概要 ・自らの研究テーマと関連する先行研究を整理し、先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかを報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかをレジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
7	① 授業テーマと概要 先行研究の整理（4） ② 授業概要 ・自らの研究テーマと関連する先行研究を整理し、先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかを報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識の中から、研究を通じて検討すべき課題を研究テーマとして取り出すことができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・先行研究がどのような研究を行っているか、先行研究の空隙がどのような点なのか、先行研究に対し自らの研究がどう位置付けられるのかをレジюмеにまとめてくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
8	① 授業テーマと概要 リサーチクエスチョンと仮説の設定（1） ② 授業概要 ・自らの研究テーマに関するリサーチクエスチョン（「なぜ～なのか？」という問いかけ）と問いに対する仮説を報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識を踏まえたリサーチクエスチョンと仮説を設定することができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・自らの研究テーマに関して明らかにすべき課題をリサーチクエスチョンとして表現し、そのリサーチクエスチョンを設定した理由、クエスチョンに対する仮説、その仮説を設定した理由をレジюмеにまとめる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
9	① 授業テーマと概要 リサーチクエスチョンと仮説の設定（2） ② 授業概要 ・自らの研究テーマに関するリサーチクエスチョン（「なぜ～なのか？」という問いかけ）と問いに対する仮説を報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識を踏まえたリサーチクエスチョンと仮説を設定することができるようになる。

	・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・自らの研究テーマに関して明らかにすべき課題をリサーチクエストンとして表現し、そのリサーチクエストンを設定した理由、クエストンに対する仮説、その仮説を設定した理由をレジюмеにまとめる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
10	① 授業テーマと概要 リサーチクエストンと仮説の設定（3） ② 授業概要 ・自らの研究テーマに関するリサーチクエストン（「なぜ～なのか？」という問いかけ）と問いに対する仮説を報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識を踏まえたリサーチクエストンと仮説を設定することができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） ・自らの研究テーマに関して明らかにすべき課題をリサーチクエストンとして表現し、そのリサーチクエストンを設定した理由、クエストンに対する仮説、その仮説を設定した理由をレジюмеにまとめる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
11	① 授業テーマと概要 リサーチクエストンと仮説の設定（4） ② 授業概要 ・自らの研究テーマに関するリサーチクエストン（「なぜ～なのか？」という問いかけ）と問いに対する仮説を報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの問題意識を踏まえたリサーチクエストンと仮説を設定することができるようになる。 ③ 予習（180分） ・自らの研究テーマに関して明らかにすべき課題をリサーチクエストンとして表現し、そのリサーチクエストンを設定した理由、クエストンに対する仮説、その仮説を設定した理由をレジюмеにまとめる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
12	① 授業テーマと概要 研究計画書の作成（1） ② 授業概要 ・自らのリサーチクエストン対して設定した仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、研究を進めるのに必要な研究計画書を自ら作成することができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチクエストン対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
13	① 授業テーマと概要 研究計画書の作成（2） ② 授業概要 ・自らのリサーチクエストン対して設定した仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、研究を進めるのに必要な研究計画書を自ら作成することができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。

	③ 予習（180分） 自らのリサーチクエストに対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。 14 ① 授業テーマと概要 研究計画書の作成（3） ② 授業概要 ・自らのリサーチクエストに対して設定した仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、研究を進めるのに必要な研究計画書を自ら作成することができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチクエストに対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。 15 ① 授業テーマと概要 研究計画書の作成（4） ② 授業概要 ・自らのリサーチクエストに対して設定した仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を整理した研究計画書について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、研究を進めるのに必要な研究計画書を自ら作成することができるようになる。 ・担当者の実務経験を踏まえて説明します。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチクエストに対する仮説を検証する方法、手順、検証に必要な情報やデータ、今後のスケジュール等を検討し、自らの研究計画書に整理する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
関連科目	■総合科目 政治学1（RMGT1139）、政治学2（RMGT1140）、社会学1（RMGT1133）、社会学2（RMGT1134）、経済学1（RMGT1137）、経済学2（RMGT1138） ■専門基幹科目 ロジスティクス論（RMGT2306）、行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361）、企業取引と法（RMGT2351）、企業組織と法（RMGT2352）、企業統治と法（RMGT2353） ■専門展開科目（共通領域科目） 社会調査法（RMGT3301）、財政学（RMGT3305） ■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）、災害史（RMGT3506）、復旧・復興論（RMGT3511）
教科書	■研究の方法論に関する教材 ・伊藤修一郎、2011年『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ・荻谷剛彦、2002年『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。 ・久米郁男、2013年『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣。 ■災害対策に関する教材 ・秋吉 貴雄、2017年『入門 公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論社。 ・浦野 正樹・吉井 博明・大矢根 淳・田中 淳編、2007年『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』弘文堂。 ・大石久和、2012年『国土と日本人 災害大国の生き方』中央公論社。 ・熊本日日新聞社編集局、2016年『熊本地震 連鎖の衝撃』熊本日日新聞社。 ・永松伸吾、2008年『減災政策論入門 [シリーズ災害と社会 第4巻]』弘文堂。
参考書・参考URL	参考資料や参考書は適宜授業で提示する。

連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等に対応しま
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

